授　業　概　要

（幼稚園教諭専攻科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	当該科目に関する実務経験
保育・教職実践演習	（ 講義・ 演習 ・ 実習 ）	柳田　真理子	保育士

授業の回数	時間数（単位数）	幼稚園教諭専攻科	必修・選択
12 回	24 時間（2 単位）	後期	必修

［授業の目的・ねらい］
・保育、幼児教育のこれまで習得した専門知識を振り返り保育者としての専門的基礎力の定着を図る
・保育、幼児教育の習得した専門的知識技能の実践への応用と課題解決能力を高める

［授業全体の内容の概要］
・保育・教育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。実践上の課題や子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を見つけ、その改善に向けての方策や実行するための問題発見能力・課題解決能力・実践への積極的態度を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
1、保育するとはどのようなことか。保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的技能を考察する。
２，保育者の責任とは、倫理観とは何かを理解する。「子どもの最善の利益」とは何かを理解する
３，日本の現代社会の変化が招いた「子育て環境の問題点」を検討し、保育者・教育者に求められているものは何かを導き出す。
４．日本の保育・幼児教育の制度について調べ、問題点や課題を提示しグループワークでそれらの方策を話し合う。
５，保育・幼児教育の環境面での問題を、政治的・経済的・保護者立場・子どもの立場になり、多面的に考察する
６，環境の改善①子どもの安全と安心のための環境構成を考える。乳児保育における保育者に要する細やかな配慮について話し合う。
７，環境の改善②子どもの活動発展のための環境とはどのような環境か？子どもの自発的活動を発展させる環境構成について起案する。
８，環境の構成③地域と園との互いに協力して、地域の子どもを育む意識を作るための工夫とは何かを考える。子育て支援を責務として理解を深める
９，保育の実践①保育者としての基本的なふるまいとは（子どものモデルとしての保育者）
10、保育の実践②子どもの内面理解と受容について（信頼関係の形成の重要性と信頼関係の効果）
11、保育の実践③子どもの活動が発展するためには（物的・人的環境や誘導などを事例を挙げて具体化）
12、保育者として向上し続けるために（振り返り・保育カンファレンス・相互評価・自己課題の理解等）

［使用テキスト・参考文献］
・保育・教職実践演習-保育理論と保育実践の手引き-(大学図書出版)
・保育所施設実践演習これまでの学びと保育者への歩み（わかば社）
・保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　解説とポイント（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法と基準］
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75%)
・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点(25%)
・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。